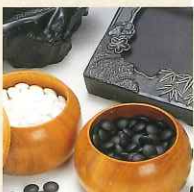
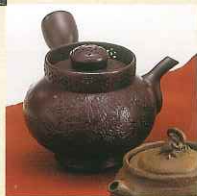


三重の伝統工芸品

— 郷土の技と誇り —



三重が誇る、伝統と匠の技

豊かな自然や歴史文化に育まれながら、
脈々と受け継がれてきた三重の伝統工芸品。
細部にまで宿る匠の技と美しさは、
心を惹きつける深い魅力にあふれています。



よっか いちばん こやき **四日市萬古焼 体験** 体験問い合わせ先：ばんこの里会館 TEL.059-330-2020

江戸時代中期、沼波弄山が自分の作品が永久に伝わるべく願いを込め「萬古不易」の印を押したのが始まりです。萬古焼を代表するものは薄手の焼締めによる陶器で、特に急須は有名です。

問い合わせ先：
萬古陶磁器工業協同組合
四日市市京町2-13
TEL.059-331-7146
FAX.059-331-8263
関連施設：
ばんこの里会館
(萬古陶磁器振興協同組合
連合会)
四日市市陶栄町4-8
TEL.059-330-2020
FAX.059-330-2021
じばさん三重
(公益財団法人 三重北勢地域
地場産業振興センター)
四日市市安島1-3-18
TEL.059-353-8100
FAX.059-353-8104



いが やき **伊賀焼 体験** 体験問い合わせ先：伊賀焼伝統産業会館 TEL.0595-44-1701 FAX.0595-44-1701

茶道が興隆した室町・桃山時代に、茶の道具として注目されるようになりました。江戸時代中期以後には、耐火性の高い伊賀陶土の特質を生かした日用食器類が作られ、現在に至っています。

問い合わせ先：
伊賀焼振興協同組合
伊賀市丸柱169-2
(伊賀焼伝統産業会館内)
TEL.0595-44-1701
FAX.0595-44-1701



いが **伊賀くみひも 体験** 体験問い合わせ先：伊賀伝統伝承館 TEL.0595-23-8038 FAX.0595-24-1015

本格的な発展は明治時代中期からです。絹糸を主に金銀糸等を組糸に使い、高台、丸台などの伝統的な組台で生産しています。特に高台による手組み紐が有名で、全国生産の大半を占めています。

問い合わせ先：
三重県組紐協同組合
伊賀市上野丸之内116-2
(伊賀伝統伝承館 伊賀くみひも 組匠の里内)
TEL.0595-23-8038
FAX.0595-24-1015



三重県

関の桶 (亀山市)

伊賀焼 (伊賀市、名張市)

伊賀くみひも (伊賀市、名張市)

火縄 (名張市)

伊賀市

名張市

大台町

紀北町

那智黒石 (熊野市)
熊野花火 (熊野市)

尾鷲市

熊野市

市木木綿 (御浜町)

御浜町

紀宝町

地張り提灯 (いなべ市)

- 桑名鑄物 (桑名市)
- 桑名刃物 (桑名市)
- 桑名萬古焼 (桑名市)
- 桑名盆 (かぶら盆) (桑名市)
- 多度の弾き猿 (桑名市)

和太鼓 (いなべ市、桑名市)

四日市萬古焼 (四日市市、菰野町、朝日町、川越町、桑名市、鈴鹿市(ほか))

- 日永うちわ (四日市市)
- 四日市の提灯 (四日市市)

- 鈴鹿墨 (鈴鹿市)
- 伊勢形紙 (鈴鹿市)

- なすび団扇 (津市)
- 高田仏壇 (津市)
- 伊勢木綿 (津市)
- 阿漕焼 (津市)
- 竹細工 (津市)

- 松阪萬古焼 (松阪市)
- 松阪の猿はじき (松阪市)
- 深野紙 (松阪市)

擬革紙 (明和町、玉城町)

松阪木綿 (松阪市、明和町)

伊勢の根付 (伊勢市、志摩市、明和町、津市、玉城町)

- 伊勢玩具 (伊勢市)
- 伊勢春慶 (伊勢市)
- 伊勢の提灯 (伊勢市)
- 伊勢一刀彫 (伊勢市)
- 伊勢の神殿 (伊勢市)
- 伊勢紙 (伊勢市)
- 和釘 (伊勢市)

尾鷲わっぱ (尾鷲市)



伝統マーク R3-210

経済産業大臣指定 伝統的工芸品

昭和49年に公布された「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」により、郷土の風土と歴史の中で生まれ、人々の日常生活と密着して維持されてきた伝統工芸品が「国の伝統的工芸品」として指定されています。三重県では5品目が指定を受けています。

※このマークがついている工芸品は経済産業大臣指定の伝統的工芸品(工芸用具)です。

体験

伝統工芸品の体験ができます。ご希望の方は事前にお問い合わせ下さい。



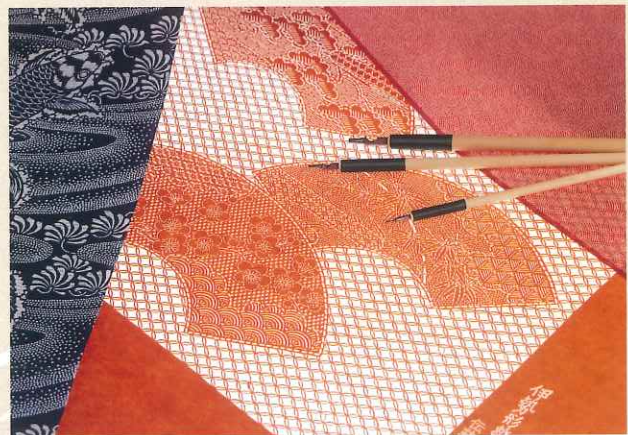
鈴鹿墨

体験

体験問い合わせ先：鈴鹿製墨協同組合
TEL.059-388-4053 FAX.059-386-4180

平安時代初期に鈴鹿の山に産する松脂を燃やして煤をとり墨を作ったのが始まりといわれています。芳香優美かつ黒色華麗で多くの書道家に愛用されています。

問い合わせ先：鈴鹿製墨協同組合
鈴鹿市寺家5-5-15
TEL.059-388-4053 FAX.059-386-4180
関連施設：じばさん三重
(公益財団法人 三重北勢地域地場産業振興センター)
四日市市安島1-3-18
TEL.059-353-8100 FAX.059-353-8104
鈴鹿市伝統産業会館
鈴鹿市寺家3-10-1
TEL.059-386-7511 FAX.059-386-7511



伊勢形紙

体験

体験問い合わせ先：鈴鹿市伝統産業会館
TEL.059-386-7511 FAX.059-386-7511

起源は諸説ありますが8世紀頃とされています。伊勢形紙は着物の生地を染めるために用いる用具で、柿渋により和紙を加工した紙に、彫刻刀で着物の文様等を丹念に彫り抜いたものです。

問い合わせ先：伊勢形紙協同組合
鈴鹿市寺家3-10-1
(鈴鹿市伝統産業会館内)
TEL.059-386-0026 FAX.059-386-7511
関連施設：じばさん三重
(公益財団法人 三重北勢地域地場産業振興センター)
四日市市安島1-3-18
TEL.059-353-8100 FAX.059-353-8104



三重県指定伝統工芸品

県内の伝統工芸品のうち、産地規模が小さいことなどにより、国の指定を受けることのできない工芸品を「三重県の伝統工芸品」として指定し、県民の財産ともいえる伝統工芸品の維持・発展に努めています。現在指定されている工芸品は33品目です。



くわなぼん (かぶら盆)



江戸時代中期に生産されはじめ、黒真塗り、木地呂塗り、青漆イジイ塗り等の技法が施され、草花など多様な模様が描かれていました。江戸時代後期、松平定信(楽翁公)が文人画家の谷文晁に命じて、桑名盆にかぶらの絵を描かせ將軍家へ献上したところから、特にかぶら盆と呼ばれ有名になりました。

問い合わせ先：桑名市商工課 TEL.0594-24-1256

くわなはもの



特に菜切包丁は播州、越前ものより早くから造られ、切れ味の良い手打ち刃物として評価されてきました。

問い合わせ先：
桑名市商工課
TEL.0594-24-1256

くわなぼんこやき



有節萬古の急須木型の秘法を知ったくり物師佐藤久米造が開窯。彼に技法を習った陶工も維新前後に輩出し、街道の土産物として栄えました。

問い合わせ先：
桑名市商工課
TEL.0594-24-1256

たどはじきる



明治中期より多度神社のお土産として売られ、悪または厄をはじき去るという掛け詞から縁起玩具として親しまれています。

問い合わせ先：
桑名市商工課
TEL.0594-24-1256

わだいに



かつて鈴鹿山系北部には良質の樺が豊富に産し、員弁川の水運により木材が集まったことから、北勢地方は太鼓製造の一大産地となりました。

問い合わせ先：
いなべ市商工観光課
TEL.0594-86-7833
桑名市商工課
TEL.0594-24-1256

しばちようちん



江戸時代中期頃から員弁地方一帯に普及したと言われています。現在では地張り提灯を作る工房も減少し、わずかに一軒がその技術を守り伝えています。

問い合わせ先：
いなべ市商工観光課
TEL.0594-86-7833

ひなが



江戸時代より宿場のお土産として人気が高く、品質と美しさから全国に名を馳せたといわれます。「丸柄」の物が多く、手に優しくしなやかで扇ぎやすいのが特徴です。

問い合わせ先：
四日市市商工課
TEL.059-354-8178

よっかいち ちようちん
四日市の提灯



四日市市富田地区は一つの生活圈、商圈を形成していた地であり、明治5年には、この地で祭礼に欠かせない提灯の製造が現在とほぼ同じ形で行われていました。

問い合わせ先：
四日市市商工課
TEL.059-354-8178

せき おけ
関の桶



関町は東海道の太田宿場町、交通の要所として発展し、需要が多く木材が入手しやすい土地柄でした。原料の「さわら」は水に対して腐食しにくく、軽い等の特徴があります。

問い合わせ先：
亀山市産業振興課
TEL.0595-84-5049

くわな いもの
桑名鑄物



江戸時代初期に時の領主の保護を受け、鉄砲等の武器を製造したのが発祥と言われています。薄手で鑄肌が美しく、また寸法が正確で数々の工業製品に生かされています。

問い合わせ先：
桑名市商工課
TEL.0594-24-1256



中南勢



あこぎ やき
阿漕焼



江戸時代中期に起こった萬古焼の姉妹窯であった津の安東焼を再興させようと、幕末の頃、倉田久八が開窯。興亡を繰り返して現在に至っています。

問い合わせ先：
津市商業振興労政課
TEL.059-229-3169

いせ もめん
伊勢木綿



江戸時代に津藩主藤堂高虎公により木綿生産が奨励され、伊勢商人が伊勢木綿として江戸へ運びました。先染め木綿ともいわれ、織る前に糸を染める特徴があります。

問い合わせ先：
津市商業振興労政課
TEL.059-229-3169

うちわ
なすび団扇



上流階級の使用に適した軽くて優美な団扇を津藤堂藩士の別所安連により創案されました。柄をナスのへたに見立てた作りが特徴です。

問い合わせ先：
津市商業振興労政課
TEL.059-229-3169

たけざいく
竹細工



江戸中期、籠師小林甚々齋が大門町でその業を営んだのが始まりとされます。手細工を唯一の方法として伝えられ、現在も伝統的な花籠等が全て手作業で作られています。

問い合わせ先：
津市商業振興労政課
TEL.059-229-3169

まつさか さる
松阪の猿はじき



縁起猿、厄弾き猿等といわれ、厄払いの意味があります。松阪の岡寺山継松寺が厄除けの寺として知られることから、この縁日の土産物として作られています。

問い合わせ先：
松阪市商工政策課
TEL.0598-53-4361

まつさか ばんこ やき
松阪萬古焼



江戸時代後期、佐久間吉郎兵衛信春が開窯し、この窯が下村焼、徳和錦花山、そして松阪萬古焼となりました。茶道具や国学者本居宣長にゆかりの鈴等を作っています。

問い合わせ先：
松阪市商工政策課
TEL.0598-53-4361

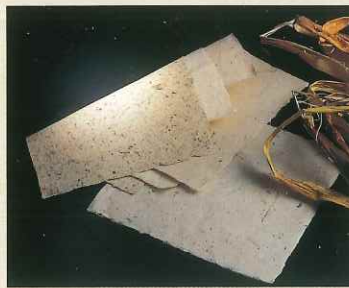
まつさかもめん 松阪木綿



江戸時代初期から農家の副業として生産が盛んとなりました。安くて丈夫で、柄ゆきの新鮮な松阪木綿は、伊勢商人により運ばれた江戸で人気を博しました。

問い合わせ先：
松阪市地域ブランド課
TEL.0598-53-4129
明和町斎宮跡・文化観光課
TEL.0596-52-7126

ふかのがみ 深野紙



江戸時代末期には紀州藩の幣料紙（藩札用の紙）の製造許可も得るほど、品質・知名度も高い和紙でした。

問い合わせ先：
松阪市飯南地域振興局
地域振興課
TEL.0598-32-2511

たかだぶつだん 高田仏壇



津市一身田に浄土真宗高田派総本山の専修寺があり、この近辺で発祥しました。左右の柱に「昇り竜」「下り竜」の彫物が配置され、華麗で腰高であることが特徴です。

問い合わせ先：
津市商業振興労政課
TEL.059-229-3169



伊勢志摩

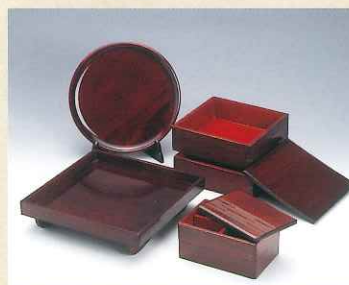
いせいつとうぼり 伊勢一刀彫



伊勢神宮の遷宮時の残木を使い宮大工が彫ったのが始まりとされます。大きなみで大胆に木の角を取り、縁起物の干支や恵比寿等、様々な作品が作られます。

問い合わせ先：
伊勢市商工労政課
TEL.0596-21-5512

いせしゅんけい 伊勢春慶



室町時代末、神宮御造営材の払い下げを受け、白木のままの箱を製造し、その上に春慶漆をかけたのが始まりとされます。檜の一枚板を使用し、丈夫に作られています。

問い合わせ先：
伊勢市商工労政課
TEL.0596-21-5512

いせしんでん 伊勢の神殿



戦前までは宮大工等が片手間に作っているものでしたが、戦後事業として営まれるようになりました。伊勢神宮の神殿を模したもので、檜に茅で葺いて作られます。

問い合わせ先：
伊勢市商工労政課
TEL.0596-21-5512

いせちようちん 伊勢の提灯



神宮の鳥居前町として栄えた伊勢地方は、江戸時代から提灯作りが盛んでした。明治時代以降ランプの普及後も神社仏閣、祭礼用、商業用等、様々な形態のものが作られています。

問い合わせ先：
伊勢市商工労政課
TEL.0596-21-5512

いせがんぐ 伊勢玩具



材料であるチシャの木や百日紅が容易に入手できたことや、参宮客の土産物として人気を集めたことから発展しました。くり物技術を用いたコマやだるま落とし等の玩具があり、鮮やかな色彩が施されていることが特徴です。

問い合わせ先：伊勢市商工労政課
TEL.0596-21-5512

いせねつけ 伊勢の根付



巾着、煙草入れ等を腰に下げる時、紐の端に付ける留め具で、江戸時代に流行しました。非常に堅い材質の地元産「朝熊黄楊」を材料とし、摩耗に強いのが特徴です。

問い合わせ先：
伊勢市商工労政課 TEL.0596-21-5512
明和町斎宮跡・文化観光課 TEL.0596-52-7126
津市商業振興労政課 TEL.059-229-3169
志摩市観光商工課 TEL.0599-44-0005
玉城町産業振興課 TEL.0596-58-8204

伊勢紙



明治以降、伊勢神宮のお神札や暦をはじめとして、印刷用の用紙として発展してきました。今日でも各神社の御用紙等に用いられています。

問い合わせ先：
伊勢市商工労政課
TEL.0596-21-5512

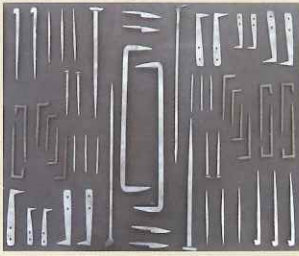
擬革紙



和紙を動物の革に似せた紙製品です。江戸時代には、擬革紙で作った煙草入れが伊勢参りの土産物として広く知られるようになりました。昭和初期には、新素材の出現等により、一旦途絶えましたが、平成25年にその製造技術が復元されました。

問い合わせ先：玉城町産業振興課 TEL.0596-58-8204
明和町斎宮跡・文化観光課 TEL.0596-52-7126

和釘



洋釘が明治初期に輸入されるまで、各種建築物に使用されてきました。伊勢の大湊は古くから造船の町として栄えており、こうした造船業を支えてきたのが、和釘などの鍛冶文化です。現在は、神社・仏閣・城など古建築物の修理・復元に主に使用されています。

問い合わせ先：伊勢市商工労政課 TEL.0596-21-5512



東紀州

尾鷲わっぱ



江戸時代初期から尾鷲地方の檜を利用して作られ、食品が痛みにくく、冷めにくいことから弁当箱として愛用されてきました。使い込むほど色彩及び木目が一段と冴えてきます。

問い合わせ先：
尾鷲市水産農林課
TEL.0597-23-8224

那智黒石



原石は熊野市神川町の山すそや渓谷等で産出される非常に細かな粒子の水成粘板岩。基石、硯、置き石として多くの人に愛好されています。

問い合わせ先：
熊野市水産・商工振興課
TEL.0597-89-4111 (代)

熊野花火



江戸時代に初盆の供養として簡単な回転花火を作ったのが始まりとされます。伝統の「連星」型は、落下傘につり下げられた数十個の花火が一斉に火を噴き、星のように見えます。

問い合わせ先：
熊野市観光スポーツ交流課
TEL.0597-89-4111 (代)

市木木綿



大和地方から機織りの技術を取り入れて、織り始めたのが起源です。市木木綿は使い込むほどに肌に馴染み、味わいのある風合いになっていきます。

問い合わせ先：
御浜町企画課
TEL.05979-3-0507

火縄



もともと火縄銃に使用されたものでしたが、現在は主に京都八坂神社のオケラ火に使用されています。名張市で生産され始めたのは江戸時代初期頃からと言われています。

問い合わせ先：
名張市教育委員会事務局
文化生涯学習室
TEL.0595-63-7892



伊賀

経済産業大臣指定 伝統マーク



伝統マーク
R3-210

伝統の「伝」の字と日本の心を表す赤丸を組み合わせたデザインで、伝統的工芸品の表示、その他宣伝の統一イメージとして使用されています。

三重県指定 伝統工芸品マーク



ひらがなの“み”を变形した黒のラインで三重県を表し、同時にカギの組み合わせさった形で伝統工芸品と、赤い四角形を頭として座って工芸品を作る匠の姿を表現しています。

経済産業大臣指定 伝統的工芸品関連施設

じばさん三重 四日市市安島 1-3-18
TEL 059-353-8100 FAX 059-353-8104

ばんこの里会館 四日市市陶栄町 4-8
TEL 059-330-2020 FAX 059-330-2021

鈴鹿市伝統産業会館 鈴鹿市寺家 3-10-1
TEL 059-386-7511 FAX 059-386-7511

伊勢型紙資料館 鈴鹿市白子本町 21-30
TEL 059-368-0240 FAX 059-368-0240

伊賀焼伝統産業会館 伊賀市丸柱 169-2
TEL 0595-44-1701 FAX 0595-44-1701

伊賀伝統伝承館 伊賀くみひも 組匠の里 伊賀市上野丸之内116-2
TEL 0595-23-8038 FAX 0595-24-1015

三重県雇用経済部 三重県営業本部担当課

〒514-8570 三重県津市広明町 13 番地
電話：059-224-2336 FAX：059-224-3024
E-mail: eigyo@pref.mie.lg.jp

三重の伝統工芸品ホームページ

<http://www.pref.mie.lg.jp/CHISHI/HP/>

